

分科会
風量測定ロボット

Construction RX

建設RXコンソーシアム®

私たちは、生産性および魅力向上を
より一層強力に推進することを目的に設立した
民間のコンソーシアムです



地上から遠隔操作するから、
高所へ移動しなくても良い！



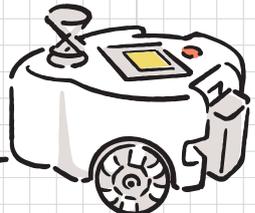
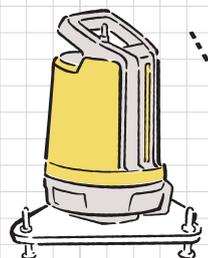
分科会
タワークレーン遠隔操作

今までは
3人がかりのところ、
ラクラク！

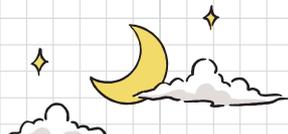
曲線が描けるロボットも
あるんだね！

すごい！
難しい墨は人より速い、
正確かも！

地上で
若手オペレーターを
育成できる！

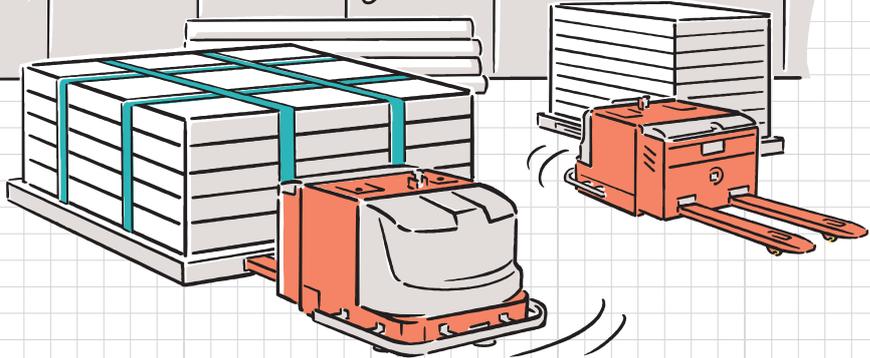


分科会
墨出し
ロボット



夜間のうちに
明日の準備！
ロボットが資材を
自動で搬送するよ！

分科会
自動搬送
システム



ご近所迷惑に
ならないし、
排気ガスもなく
快適！

電動だから
音が静かだね！



分科会
コンクリート
施工効率化

建設RXコンソーシアムとは

- STEP 1** a社ではAという技術を開発した。これから現場で役立てたい。
- STEP 2** a社だけでなくb社・c社でも技術Aの開発を試みていたが様々な課題に直面!
- STEP 3** コンソーシアム内で分科会を発足! 皆で協力して、技術Aの実用化を目指す。
- STEP 4** 技術Aを実用化! 業界内での普及が進む!



私たちは パートナーを募集しています。

私たち建設RXコンソーシアムは、建設業界全体の生産性や魅力度の向上をより一層強力に推進することを目的に設立した民間のコンソーシアムです。幹事会社は鹿島建設、竹中工務店、清水建設、大林組、大成建設の5社が務めています。建設業のみならず、メーカー、インフラ、商社、保険会社などに加えて、ITベンチャーなど、250社以上の多種多様な企業が参画しています。建設業界のロボット・ICTの普及へ向けて、ともに取り組む企業・団体を募集しています。

活動内容

新技術の共同開発

施工段階で必要となるロボット技術やIoT関連アプリケーションの新規開発、ならびに改良・実用化

既開発技術の共同利用

既に開発が終わっている技術の実用化に向けた試行段階としての共同利用

情報提供・発信

実用化が完了し、本会外部での利活用が可能となっている技術に関する情報発信、活用促進

分科会 システム

現場に納入される建設資材を所定の場所まで自動で搬送するシステムの構築と普及を目指しています。

分科会 ロボット

工事に必要な基準線や取付け位置を床面などへマーキングする作業を自動化します。

分科会 作業所廃棄物対応技術

建設現場で発生する廃棄物の処理を、最新技術を活用して効率化を図ります。



分科会 コンクリート

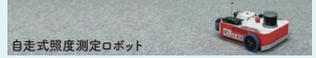
コンクリート施工にロボット等を活用して作業の省人化・省力化を図ります。

分科会 タワークレーン

タワークレーンを遠隔から操作することでオペレーターの就労環境改善を図ります。

分科会 ロボット

通常夜間に行われる照度測定業務をロボットを用いて自動化し、現場担当者の就労環境改善を図ります。



分科会 ロボット

空調設備の風量測定業務をロボットを用いて自動化し、現場の生産性向上を図ります。

分科会 生産BIM

建築・設備のBIM®データを施工時に有効活用し、他の分科会とも連携することで現場のDX化・RX化を図ります。
※Building Information Modeling



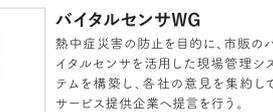
分科会 市販ツール

ドローンWG
異業種で活用中のドローンを建設業で活用するための事例、法令、新技術に関する情報交換を行い、利活用の促進を図ります。



分科会 市販ツール

バイタルセンサWG
熱中症災害の防止を目的に、市販のバイタルセンサを活用した現場管理システムを構築し、各社の意見を集約してサービス提供企業へ提言を行う。



分科会 アシストスーツWG

アシストスーツの試着会等を通じて評価、共有を行い、建設現場に適した機能や安全性を考慮したアシストスーツの普及促進を図ります。



分科会 AI

AIによる画像解析を用いて安全帯の不使用を監視・警告して、高所作業時の安全性向上を図ります。



分科会 相互利用可能な技術分科会

各社が開発したロボット、機械、ソフトウェア等の相互利用を推進し、業界全体での生産性向上の早期実現を目指します。



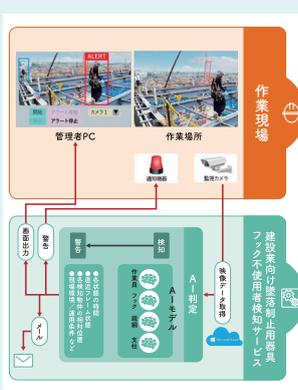
分科会 効率化

ICT技術による
配筋検査の効率化
鉄筋に印字したARマーカーの読み取りや、高度化された鉄筋自動計測デバイスの実現可能性を検証し、多大な労力のかかる配筋検査の効率化を図ります。



分科会 安全帯不使用検知システム

AIによる画像解析を用いて安全帯の不使用を監視・警告して、高所作業時の安全性向上を図ります。



分科会 紹介

技術の共同研究開発や相互利用に向けて、12の分科会を設置して活動を推進しています。

